BIO NORMALIZER®
Fermented Green Papaya

The 30th Anniversary

A panel discussion on nutraceutical approach to health and disease

脳障害編

Brain Damage Neurological Disoder

脳障害後の情動効果にバイオ・ノーマライザーが及ぼす効果についての報告

オルガ マクサコヴァ医師 医学博士
(ロシア)

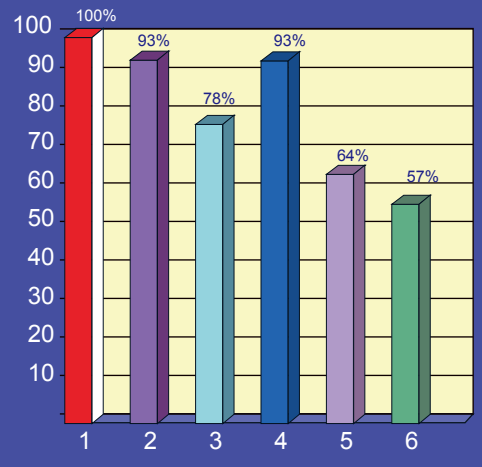
ロシア神経外科センター
リハビリテーション部 部長

重度の脳障害患者の心理
ー情動および神経状態に及ぼすバイオ・ノーマライザーの効果ー

私どもの患者は退院後、自宅で暮らすようになり、治療を受けたり薬を服用しなくなっても、死ぬまで、次に申し上げるような症状に苦しみます。それは、疲れやすさです。彼らは仕事につけません。１時間以上働き続けられないのです。いわゆる打ちひしがれた状態になってしまうのです。既に傷は治っていると考えられるのに、身の回りのことすらできない場合もあります。私たちは、こうしたグループの人々、つまり、退院したけれども、まだ私たちの観察下にある人々に対し、バイオ・ノーマライザーを用いてみました。

損傷の原因が生じてからの期間の長さはさまざまです。すると、かなり多くの人々にバイオ・ノーマライザーの効果があらわれました。家族も本人も、本人が話せる場合ですが、このバイオ・ノーマライザーによる治療を続けてほしいと希望しました。疲れやすさが軽減され、今までよりも多い量の負荷に耐えられるようになったのです。いろいろな症状がありますが、どれをとってもかなり改善されています。

臨床および神経心理学におけるバイオ・ノーマライザーの治療効果の評価
Clinical and Neuropsychological Evaluation of BN Treatment Effect (N=14)



1- good tolerability
2- general improvement of neurological psychological and physical status
3- decrease of diencephalic symptoms
4- Increase of self-assurance
5- decrease of speech disorder
6- increase of memory and humanity

1- 良い耐容性
2- 神経性心理的、物理的な状態の一般的な改善
3- 間脳症状の減少
4- 自己保証の増加
5- 音声障害の減少
6- 記憶力と人間性の増加

患者本人が、よくなったと言っている点が重要です。なぜなら、こうした患者たちは自分の症状を過小評価したり、あるいは逆に過大評価して、社会に全く適応できないと考えたりするからです。多くの患者で言語障害の改善が見られます。また、記憶力もよくなっています。つまり、ＱＯＬが高くなったと言えます。社会にも自分自身にも適応できるようになったと考えられます。

こうした患者だけにとどまらず、去年から私たちは、より重症の患者にもバイオ・ノーマライザーを試し始めました。実は、私どもの病院には長期入院している重度の障害者がいます。彼らは私の担当するリハビリ科に登録されています。症状は多様ですが、既に外科的治療を終わっているので、リハビリ科で独自に薬理療法を施すことができます。

重症とはどういう意味かと申しますと、脳に重度の損傷を受け、長期間意識のない状態が続き、その昏睡から覚めても外界に全く反応できない状態にあるということです。しゃべれない、手足が麻痺している、人工呼吸器が外せない、人工食道からしか栄養をとれない。皆様もテレビや映画でごらんになったことがあるかと思います。このような植物状態でいると、感染症にかかりやすくなり、抗生物質も効かなくなってきます。脳の状態がよくなっているにもかかわらず、感染症のため死亡してしまう例もあります。私たちは、こうした状態の患者に対してもリハビリを行うことを任務としています。それぞれの段階で、回復があり得るのです。

重症患者のバイオ・ノーマライザー投与後の状態について

ここで具体例を紹介したいと思います。左の患者は、現在でも私どもの研究所で治療を受け続けています。彼は６７歳です。約１年前に、脳に重度の損傷を受けました。３カ月間、昏睡状態でした。人工呼吸器をつけ、人工食道から養分をとり続けていました。自分で食べ物を飲み込むことができない。つまり体が、機能のうち残ったものがほとんどないという状態でした。

４カ月後、ようやく意識が戻りました。しかし、しゃべれない、物が飲み込めない、動けないということが判明しました。私たちのリハビリの仕事が始まったのです。理論的には、かなりの状態まで回復できる潜在力があるとわかりました。しかし、先ほどお話しした感染症にかかってしまいました。寝たきりで、口から栄養がとれない。したがって、リハビリ運動など受け付けない状態でした。ですから、潜在的な回復力があることを考慮して、私たちのチームがエクササイズを勧めても、彼は拒み続けました。

そこで６カ月前に、バイオ・ノーマライザーの投与を決意しました。この表には、生化学的分析の結果が示されています。バイオ・ノーマライザー使用前と、４カ月間バイオ・ノーマライザーを投与した後とを比較したものです。ごらんのように、かなりよい結果が出ています。次のスライドをお願いします。

４カ月後、もちろん魔法のつえを使ったわけではありませんから、すぐにではありませんが、患者は自分の足で歩けるようになりました。まだ言語障害は残っていますが、自分から話そうとします。彼は教養のある、魅力的な紳士です。かつて教授として日本にも来たことがあり、人工知能の開発をしていた人です。現在彼は、自分で物を食べることができます。この写真は、私がカウンセリングを行っているところです。つまり、このレベルにまで回復しているのです。この治療では、夢の回復が試みられています。睡眠不足を訴えるので、よく眠り、夢を見ることができるようにしようとしているのです。

結論を申し上げます。このように、私たちは患者を助けることができるのです。バイオ・ノーマライザーがもっとたくさんあればよいと思います。バイオ・ノーマライザーは、私たちのリハビリチームにとって必要不可欠なものとなっています。

このレポートは１９９９年９月３日に岐阜県の長良川国際会議場で行われたバイオ・ノーマライザー開発 30 周年記念パネルディスカッション「バイオパシー理論による治療現場からの報告とバイオ・ノーマライザーの今後の可能性」をもとに作成しています。DVD の詳細は大里三旺研究所（Osato Suno Research Institute 略称 OSRI）のウェブページをご参照ください。

http://osri.asia/lab/30th_anniversary#Redox